

愛大の創立者って知って？

「智を愛するものが集う」愛知大学

戦争への反省から民主主義を希求し

「世界文化と平和への貢献」と

国際社会と地域社会への発展に寄与する

グローバルな資質を備えた

人材を育てることを目指した。

裁判官として「ただしい判決文は

どうあるべきか」と苦悩…

恩師である三淵忠彦のすすめにより教員の道へ。

学生を愛し、学生の未来に対して強い責任感を持ち

「人」を大切にしていた。

本間喜一

(ほんまきいち)

1891～1987年

出身地：山形県東置賜郡川西町玉庭

経歴：東京帝国大学（現：東京大学）

法学部卒業

東亜同文書院大学最後の学長

最高裁判所の事務総長

愛知大学 創立者 学長

本学名誉学長：その名は本間喜一。

彼は戦時下の最も厳しい時期に就任した

愛知大学の原型となる「東亜同文書院大学」

最後の学長であり、

現に至る本大学を建設した。

意外と
お茶目な面も？！

2025.4.1公開

主演：本間喜一先生

作成：CF山形

ON AIR

エピソード

1



現地実習1日目 山形県の偉大な人物

初めに私はアルカディア人物館へ向かいました。アルカディア人物館とは、創立から15年で廃校となった中学校を再利用した川西町交流館あいばるに併設されている地域の歴史博物館です。イギリスの旅行家イザベラ・バードは日本奥地紀行にて川西町を「アジアのアルカディアである。」つまり、アジアの理想郷であると賞賛をしていました。彼女が残した言葉と理想郷のごとく川西町を発展させたいという思いが「アルカディア人物館」という名の由来の一つになっています。展示品には、本間先生の学生時代の成績表や小学校の卒業証など貴重な遺品がありました。興味深かったのは学生時に使用されていた自習ノートです。そこには様々な動物や植物などの細胞図解などを他の分野より事細かに書き記されており、本間先生は内部構造を知ることに関心を持っていたことが分かりました。展示や学芸員さんのお話しを通して、本間先生は身長が180cm、足のサイズが29cmと当時の一般男性より大きくお相撲さん用の足袋を使っていたこと、自分でおならをしたことを人のせいにしていたなど学長の顔とはまた違った本間先生のユーモア溢れる愉快な一面も知ることが出来ました！



上映中...



2

エピソード

現地実習2日目 いざ、本間喜一先生の生家へ



現地実習2日目は、本間先生の生家(現:小池邸)の茅葺き屋根整備作業を行いました。現在小池邸は本間先生の親族、小池ふみさん一家が管理をされています。最初に茅畑で小池さんから茅葺きの作り方を教えていただきました。前日に雨が降っていたこともあり、茅は水分を含み重く高さも2m超えるため、散らばっている茅を一つにまとめて持つところからかなり苦戦しました。お屋には小池邸に戻り、手作りの山形郷土料理をこちそうになりました！どれもとても美味しくて疲労した身体に癒しとパワーを与えてくれました。お料理の大半が小池さん宅で収穫された食材と聞き大変衝撃と感銘を受けました…！！お腹と元気を満したのち、午後の作業を再開しました！晴れた午後には茅の水分が抜けて軽くなっており、作業も午前以上に捗りました。作業をしているとびよんびよん飛び出してくる蛙を発見したり、広大な山と青空の美しい景色を眺めたり、豊かな自然を感じながら黙々と茅葺きを作り、無事に作業を終えることが出来ました。作業終了時には既に筋肉痛で、足がつりそうなほど身体にダメージがありました。今回行った作業を毎年少人数で何日も通しながら、本間喜一先生の生家を守る為にこれほどにも過酷な作業を続けてくださっている小池さん一家に尊敬の念を抱きました。また実際に小池邸を拝見させていただいて、箱階段や囲炉裏など昔ながらの家の作りに、時代の流れと歴史的感動を覚えました。

上映中...



エピソード

3



現地実習3日目 改めて気付いた魅力

山形県川西町現地実習の3日間を通し、本間先生が残したものの思いを私たち後世へ繋ぐために、本間先生に関する資料や情報とことん追求し眠っていた歴史を掘り起こし磨きあげていく方々、先代が残した歴史ある古い家屋を変わらぬ伝統として代々受け止めてくださる方々などが、ご尽力くださっていることを知り心より尊敬しました。また、本間先生がどれほど多くの方に慕われ、偉大な人だったのかを感じることができました。川西町の町民の皆さんも心温かく優しい方ばかりで、直接お話しや作業を一緒にでき、本当に嬉しかったです。愛大生として皆さんにも機会があればぜひとも一度は足を運んでほしい、そんな素敵な本間喜一先生の故郷でした。



end...

上映中...

